

沢田

傾聴訪問活動も軌道に乗り、「もっと力になりたい。」、「有償ボランティアについても考えていこう。」という機運が高まってきた矢先、新型コロナウイルスの影響から活動が思うようにできない状況が発生しました。

そんな中、新型コロナウイルス対策の地方創生臨時交付金を活用した事業として「移動販売実証実験」がスタートし、6月3日から来月3月まで沢田地区内4か所で「移動スーパーとくし丸」の利用が始まりました。最近では「うちの方にも来てほしい」などの要望や、多くの喜びの声が聞かれています。この取り組みが、高齢者の方々にとって暮らしの中の困りごと解消に少しでも繋がるのが望まれます。

【沢田健康福祉部会 水野】

中谷

3月に訪問活動を行い、これからの福祉部会の活動を地域の皆様に伝えること、何よりも訪問先の方から「来てもらえて嬉しい」という声が聞けて、部会員一同前向きな気持ちになっていました。

その矢先の新型コロナウイルス問題。なかなか終息が見えない状況が続いていますが、中田サロン、谷沢サロンは感染防止対策を徹底し、活動が再開されました。

中田サロンでは、会の方の連絡網を作り、電話での声かけ合い、フレイル防止のためのチラシを配布するなど、ボランティアの皆さんが工夫を凝らした活動を行っています。福祉部会でもこの状況でも「できること」を考えていきたいと思います。

【中谷福祉部会 吉田】

山橋

新型コロナウイルスの影響でサロンや長寿会活動が自粛されていましたが、長寿会ではゲートボールが再開。サロンでは、北山形サロンが7月6日に再開されました。

サロンの参加者からは、再開を心待ちにしていたとのことで、大変喜ばれていました。今回は、オレオレ詐欺の体験談や、新型コロナウイルス感染予防のための「新しい生活様式」について話を聞きました。

北山形サロンでは、欠席者の心配や、日々の見守り・安否確認、一人ひとりが声かけや、気にかけることができている。今後、各地区のサロンにも積極的に参加し、地域のみなさんとの良い関係づくりをしていきたいと考えています。

【山橋福祉部会 矢内】

野木沢

令和2年度に入り、新型コロナウイルスにより活動が制限され、部会としての活動は行えない状況が続きました。6月より徐々にその制限が緩和され、自治センター内での活動も徐々に行われるようになってきました。

最も早く開催を決めたミニデイのぎさわの会は感染予防を徹底し、7月1日に利用者21名ボランティア14名で実施しました。部会は最初の会議を7月22日に予定し、地域のニーズを掘り起こすことを目的に長寿会を通じ、アンケートを実施する予定です。その中で出てきたニーズに対して地域としてどのような活動を行って行くか検討して行きたいと考えています。

【野木沢福祉部会 長谷川】

母畑

6月12日に令和2年度第1回福祉部会を開催しました。新型コロナウイルス感染症予防のため、マスク着用、三密の回避、換気の徹底を守りながら、短時間で役員改選と令和元年度の活動報告と総括、令和2年度活動計画を検討していただきました。

- ◆主な活動内容は、
①高齢者タクシー料金助成事業申請補助（未申請の高齢者への声かけ・代理申請等）
②一人暮らしの要望アンケート調査の実施（75歳以上一人暮らしを対象に調査）
③各種研修会・勉強会の参加
④各部会間の連携
（安心安全部会と自主防災に関する連携）

【母畑福祉部会 永沼】

タクシー料金助成事業申請状況報告

R2.7月現在

Table with columns: 地区名, 申請人数, 利用状況, 申請者年齢別 (80歳~, 90歳~)

Table with columns: 申請者性別, 男性, 女性, 計

誰もが住み慣れた地域で 最期までいきいきと 心豊かに暮らせる社会に向けて



7月より活動再開した石川長寿会音楽部の皆さん

本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け合いの地域づくりを考えていきましょう。

新しいふれあい社会

これからの「助け合い」を どう進めるか。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言など、自粛生活が長引き、すべての集まりの場、会議や研修会なども含め活動が制限されてきました。徐々に再開されてきてはいますが、身近に活動や参加をためらう方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回の事態を受けて、集まる時の工夫など、新しい生活様式を取り入れ、サロン活動や助け合いの活動も徐々に再開しています。特に、一人暮らしの高齢の方や、心配な方が身近にいれば、生活はもとより、心を支えるという面でも「助け合い」でしかできないこともあると改めて実感しています。

さらに九州から始まった7月の大雨による被害は、本町でも昨年の台風19号の被災もあり、他人事ではないニュースでした。今までのように、全国からボランティア等の支援活動もできない事態が発生しています。

改めて、特別な人ではなく、身近な近所さん同士がつながり、声かけ合っている地域、支え合う地域の必要性はますます問われている時だと...。あなたは、どんな地域で暮らしたいですか。

シニア世代に求められている社会参加！ みんなで参加してつくる 助け合いの地域づくりへ

元気な方たちには積極的に地域に参加していただき、支えを必要とする仲間を支える役割が期待されています。「高齢者」は、支援を受ける側でもあります。同時に支援をする側としても大いに期待されています。また、社会的役割を持つことが「生きがい」となり、そのことが「介護予防」にもつながっています。介護問題は他人事ではありません。「我が事」として考えて！「今」もう始まっています。

「向こう三軒両隣」「困ったときはお互いさま」の 「助け合い」ができる地域を目指して！



ゴミ出し



話し相手



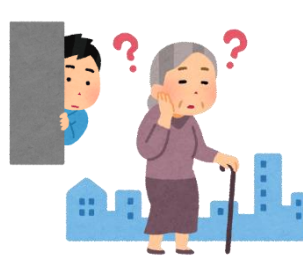
ついでの買い物



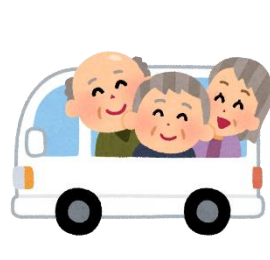
電球の交換



重い物の移動



認知症の方への見守り



通院・買い物の送迎



お墓の掃除



一緒に体操・運動



雪かき



草むしり・花壇の手入れ

自分が高齢になったら、どんなことを手伝ってほしいだろうか…

私は、ご近所さんにどんなことができるかしら…

～ 地域の「見守り」や「支え合い」活動 ～

～まずは、「おはよう」「こんにちは」のあいさつから始めよう～

◆一緒に「助け合い」をしてくれる仲間を募集しています。自分の地域について一緒に考えましょう！ぜひ、お住いの地区の自治センターまたは社会福祉協議会に声をかけてください。

<連絡先> 各地区自治センターまたは石川町社会福祉協議会(26-3793)迄

「支え合える」

地域づくりを目指して「今、なぜ、「地域の支え合い」が必要なのでしょう？」

1945年(昭和20年)の終戦後、第1次ベビーブームと言われている1947年(昭和22年)～1949年(昭和24年)に生まれた方が、2025年(令和7年)に後期高齢者(75歳以上)になります。

国民の4人に1人が75歳以上になると言われ、少子高齢化の中、高齢者が増えるとともに、現役世代の担い手不足が進んでいきます。また、これまでと変わり高齢者に対して、支え手が足りなくなるとも言われていて、新たな課題として、老老介護や介護難民、認知症の増加、孤独死などといった問題も出てくることと予測されています。

このような2025年に起こると懸念される課題を「2025年問題」といい、これら乗り越えるために「地域の力」が必要となつてきます。

懸念される課題を「2025年問題」といい、これら乗り越えるために「地域の力」が必要となつてきます。

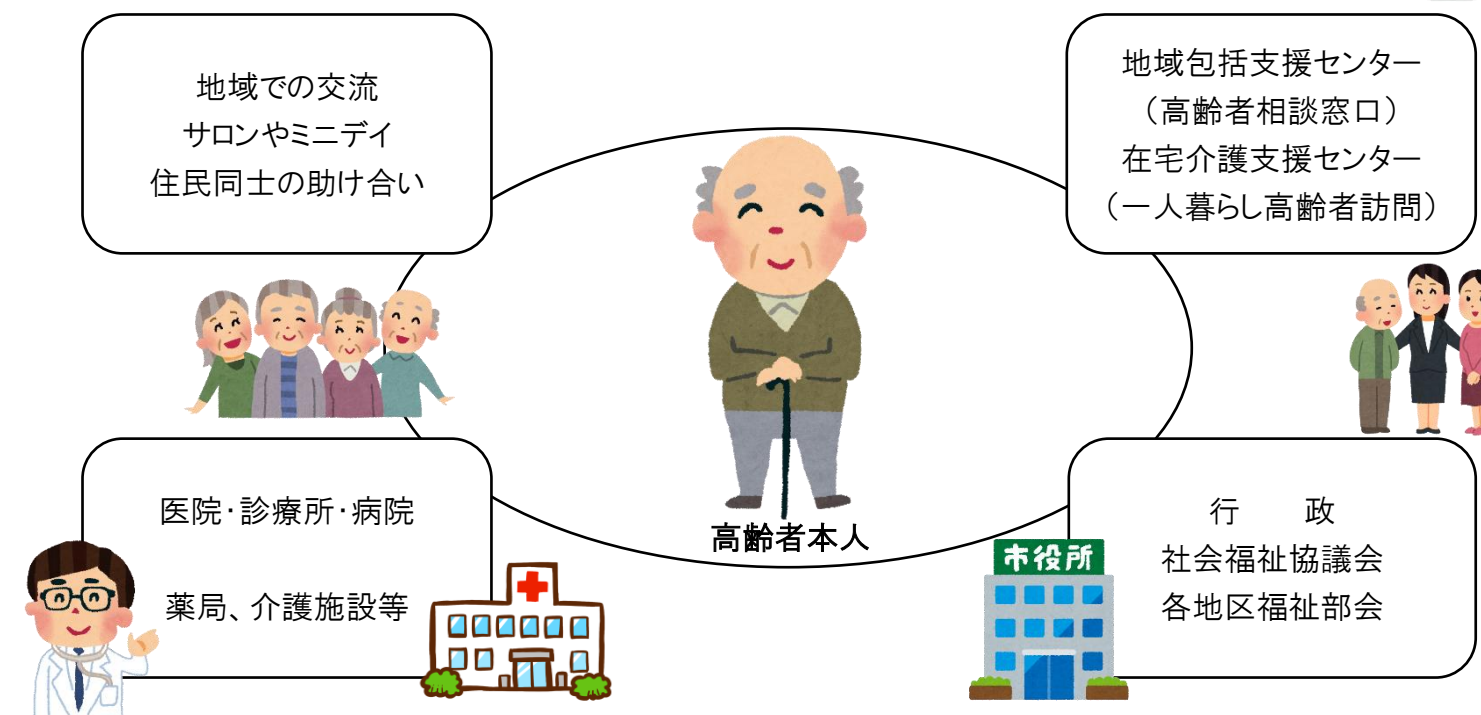


現在

将来

歳を重ねていくと「ちょっとした困りごと」が増えてくる 「今は元気だけど、どうなるの？」

高齢者を支える仕組みは… 困ったときは、いろいろなところにつながります。



◆地域とのつながりは、5地区で始まっている地域自治協議会福祉部会が、相談窓口や「つなぐ」役割も担っています。

(例)

困っている人…「誰か米すりに行ってくれないかな。」

ケアマネージャー…「米すりは介護保険外になるのでヘルパーさんをお願いすることはできないんです。」

「社会福祉協議会に相談してみますね。」

社協…「社協でも直接はお手伝いのできないので、シルバー人材センターや地区の福祉部会に聞いてみますね。」

シルバー人材センター…「シルバーでも1時間に満たないお仕事を引き受けるのは難しいんです。」

福祉部会…「福祉部会で地域のどなたかに聞いてみますね。」

その後、地域の方が対応してくれ、無事米すりをやってもらうことができました。

例にあるように「ちょっとした困りごと」が増えてくるので、連携を取りみんなで助け合いができる地域を目指しています。

「誰もが、住み慣れた地域で、いきいきと最期まで暮らしていくために」みんなで一緒に考えていきましょう。